

天理教 江南支部だより

発行先 江南支部
発行日 立教186年5月1日
発行責任者 福西 努
発行住所 甲賀町上野461番地9

5月号 N0274



教祖誕生祭 4月18日
二百二十五回目の御誕生日寿ぐ
中山大亮様を祭主に本部神殿、教祖殿で執り行われた。祭典に引き続き、「よるこびのハーモニー」が中庭で催され、神苑一带に道の子の歌声が響いた。

教区少年会が「わかぎの集い」を開催



去る3月30日、中野大教会を会場にわかぎの集いを開催した。門出式では3名の中学三年生の門出をお祝いし、続いて、オリエンテーションではゲームなどで親睦を深めた。午後からはスポGOMIを行い、3班に分かれて1時間ゴミ拾いをし、缶やペットボトルにポイントをつけ、拾ってきた数のポイントで勝敗を競った。



**教区布教部がひのきしん
スクールを開催**
3月30日、琵琶分教会を会場に畳の表替え講座を開催した。

朝の信仰読本

中山慶純著

澄んだ心を保つ方法

ある家庭でのこと、ご主人が仕事を終えて家に帰ると、奥さんがいつものように晩ご飯の支度をしてくれていました。

「きょうはどんなおかずかな？」

「今晚は見物ですよ」

「ほう、いい物が出てくるんやろうなあ」

見物と聞いて、期待して食卓に着きます。しかし、いつもとあまり変わりありません。

「おい、どこが見物やねん」

「見物やなんて言ってますよ。煮物と言ったんですよ」

「・・・」

聞き間違い、見間違い、言い間違い、勘違い、考え違いなど、人はいろいろな「違い」をして、相手と食い違うことがあります。そのとき、「私が悪かった」とすぐに謝る人もいれば、相手を責める人もいます。誰が悪いわけではないのに、思惑と違ったからといって

腹を立てるのは、自分で自分の首を絞めているのと同じです。

また、こんな人もいます。

「うちの舅は、私のことを『お母さん』と呼ぶんです。舅の母親だなんて、百歳を超えてしまいますよ」

「あなたのおうちでは、子供さんはもちろん、舅さんの息子であるご主人も、あなたをお母さんと呼ぶのでしょうか？家のなかでの名前が『お母さん』になっているだけで、誰も本当のお母さんだなんて思っていないですよ」

これも、物事を悪いほうにしか捉えられず、自分の運命を落としてしまうような一つの例です。

お道の信仰は、心を澄ます生き方を教えられています。澄んだ心をどれだけ保つことができるか、平常心でいられるか、親神様は一人ひとりの心をじつとご覧になっています。

嵐が来たとき、吹き荒れる風に向かって、「吹くなバカヤロー！」と叫んだところで、その辺りの物と一緒に吹き飛ばされるだけです。ひとまず安全な場所へ避難して、この後どう行動するかを考える。あるいは、スツと膝を折つ

てその場にしゃがみこみ、過ぎ去るのを静かに待つ。

このようなイメージで、人間関係も考えてみましょう。不本意なことを言われても、イライラしたり腹を立てたりするのはなく、「なぜ、この人はこんなことを言うのだろう」と、落ち着いて原因を探ってみる。それが分かったら、こちらの心を治めてやり過ぎず。

これが上手な通り方です。

さらに、「腹が立つのは、私の心が乱れているせいだろう」と自分の心づかいを反省する。あるいは、「親神様は何か思いがあつて、この人にこう言わせておられるに違いない」と、神意を悟らせていただくことができれば、より素晴らしい。

信仰で大切なことは、先に述べた「心を澄ます生き方」と、「つらいとき、どれだけ勇み続けられるか」です。イライラ、カリカリして心が乱れてきたら、「私はまだまだ成人が足りないな」と真摯に反省して、運命を落とさぬよう、明るい心で通らせていただきます。



みんなの教理勉強

だめの教えって素晴らしい

飯田照明

だめ（究極）の教えの何と

ありがたいことか！

キリスト教、仏教、イスラームと比べて

だめの教えは神自らの直接の啓示である

キリスト教では鳩が舞い降りるように、聖霊が天からイエスの上に下りて来たと書いてある。神は聖霊を通してイエスに福音を伝え、イエスを通して神の思いを啓示した。西暦三二五年ニカイア公会議で、三位一体の教義（父なる神、子なるイエス、聖霊はそれぞれ三つの位格を持つが一である）が作られるまで、イエスは神か人かという議論が続いた。

イスラームのムハンマドは、天使ジェブラーイルの仲介を通してアッラー（神）の啓示を聞き、自分を最後の

預言者と言った。アッラー←天使←ムハンマドと神の思召が伝えられた。これは間接的で仲介啓示である。

親神様の啓示は親神さまが、御自ら教祖をやしろとしてこの世に現れて、教祖のお口を通してその思召を伝えられた。

この世に顕現された神による直接啓示である。

だめの教えの啓示は人類史上はじめての長期にわたる啓示である

人間と世界を創り出し何億年という長い年月をかけて、育て守護くださって来た親神さまは人間を幸せにしてやりたいとの親心から、この世にじきじき現れられて、お言葉により、筆にしるし、そしてひながた（生涯の歩み）をもつて、本当の幸せな生を実現するための正しい道を、五十年にわたって教えられた。史上空前の、かつてなかった長期にわたる啓示である。

ちなみに、イエス・キリストは三十歳過ぎに十字架で亡くなったが、教え

（福音）を説いた期間は少なくとも一年、長くて三年ほどであるがよく分からない。

仏教経典によれば釈迦は二十九歳で出家し、三十五歳で悟りを開き、八十歳で入滅した。ほぼ四十年にわたって説教したとある。

ムハンマドは四十歳の頃、天使ジェブラーイルを通してアッラー（神）の啓示を受け、信仰を拓め、六十二歳までイスラーム教徒を指導した。二十数年間である。

教祖は四十一歳から九十歳まで現身をもつ神として、地上の月日、月日のやしろとして、口（言葉）で、筆（おふでさき）で、ひながた（聖なる行為）で教えをお説きくださった。

お姿を隠され（現身を隠され）た後も、おぢばに存命の理をもつて、本席飯降伊蔵様を通して二十年にわたって思召を伝えられた。

七十年にわたる啓示は、人類史上、比類ないことである。

キリスト教の偉大さは、このわずか



教祖百四十年祭

教祖百四十年祭に向かって ともに成人の歩みを

な期間の福音を信じ、あらゆる迫害や弾圧の中をイエスをキリスト（救世主）と信じ続け、人類の精神性を高めたことである。今も世界各地の水も電気もない険しいところで、生命の危険もかえり見ず、貧しく苦しむ人たちに献身的に奉仕していることである。しかし、過去のキリスト教は他宗の人々に対して大きな過ちを犯した。たとえば、ユダヤ人迫害、十字軍による殺害、新教（プロテスタント）と旧教（カトリック）の戦い、魔女裁判などである。お道には同じような過ちを犯す排他的、非寛容な教えは全くない。

今後の取り組み ようばく一斉活動日

ようばく一斉活動日は、

同じ地域に住むようばくが集い、思召に心を揃え、互いに勇ませ合ってともに年祭活動の歩みを進める日です。ようばくは、毎回参加しましょう
会場
全支部に会場が設けられます
全部で5回開催されます。

開催日

第1回 立教186年・2023年 10月29日

その他の日程、会場は後日発表します。

・ようばく講習会

ようばくがそれぞれの立場で陽気ぐらし世界実現に向かってその使命を果たすことができるよう、親里ちばにおいてをやの思召を学び、自分の役割を再確認し、今後の日常生活に活かす場です。詳しい内容は、ホームページをご覧ください。

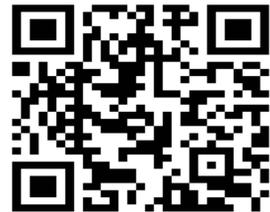
・おやさどひのきしん

親里でのひのきしんを希望される方に、ひのきしんの受け入れをいたします。

・滋賀教区決起の集い

7月2日 おちばにて開催
詳しくは、後日掲載いたします。

支部だよりを、天理教ホームページの「教区支部情報ねっと」に掲載します。右のQRコードから直接見れます。



5月の支部にをいがけデー
5月28日（日曜日）午前9時より

拠点教会 小原分教会 信楽町小川出271番地
教祖140年祭活動の旬！ 勇んでつとめましょう！
